

令和3年度 社会科 3年 年間指導および評価計画 中野区立第二中学校 6- (2)

月	単元名・教材名	配当時間	単元の目標	評価規準	学習指導要領との対応
4	<p>《歴史的分野》</p> <p>【第7章】</p> <p>二度の世界大戦と日本</p> <p>[第1節]</p> <p>第一次世界大戦と民族独立の動き</p> <p>①クリスマスまでには帰れるさ</p> <p>②パンと平和、民主主義を求めて</p> <p>③成金の出現</p> <p>④不戦の誓い</p> <p>⑤わきあがる独立の声</p>	5	<p>○第一次世界大戦の背景とその影響、民族運動の高まりと国際協調の動きについてとらえ、第一次世界大戦前後の国際情勢や、大戦後に国際平和への努力がなされたことを、日本の動きと関わらせて理解する。</p>	<p>【知】第一次世界大戦の背景や戦いの様子、大戦後の世界の動きについて様々な資料を活用し関連づけながら理解し、その知識を身に付けている。</p> <p>【思】第一次世界大戦について、欧米列強や日本が推し進めてきた帝国主義政策や、民族対立、大戦の状況、大戦後の世界や日本の動きなどから多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。</p> <p>【主】第一次世界大戦と大戦後の世界や日本の動きに対する関心を高め、大戦を引き起こした要因や、大戦後に世界平和実現のために世界や日本が取り組んだ努力について、主体的に追究しようとしている。</p>	(5) オ
	<p>[第2節]</p> <p>大正デモクラシー</p> <p>⑥憲政の本義を説いて</p> <p>⑦デモクラシーのうねり</p> <p>⑧モボ・モガの登場</p>	4	<p>○政党政治の確立や民主主義思想の普及、社会運動の高まりについてとらえ、大正時代に国民の政治的自覚が高まり、文化の大衆化も進んだことを理解する。</p>	<p>【知】大正時代の特色について、政治・社会・文化に関する様々な資料を活用しを関連づけながら理解し、その知識を身に付けている。</p> <p>【思】第一次世界大戦後の動きを、政治・社会・文化を関連づけて多面的・多角的に考察し、結果を適切に表現している。</p>	(5) オ (1) イ
5	<p>[第3節]</p> <p>恐慌から戦争へ</p> <p>⑨独裁者の出現</p> <p>⑩日本を襲う不景気</p> <p>⑪満州は日本の生命線</p> <p>⑫「話せばわかる」</p> <p>⑬ぜいたくは敵だ</p>	5	<p>○経済の世界的な混乱と社会問題の発生、昭和初期から第二次世界大戦の開戦までの日本の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係、欧米諸国の動き、戦時下の国民生活についてとらえ、軍部の台頭から戦争までの経過を理解する。</p>	<p>【知】第二次世界大戦前の世界と日本に関する様々な資料を活用し、読み取ったり図表にまとめたりして第二次大戦に関する知識を身に付けている。</p> <p>【思】第二次世界大戦について、経済や政治と結びつけながら多面的・多角的に考察し、結果を適切に表現している。</p> <p>【主】第二次世界大戦前に対する関心を高め、世界平和の実現を旨とした国際社会の挫折や、戦争情勢について主体的に追究しようとしている。</p>	(5) カ

	<p>[第4節] 第二次世界大戦と日本の敗戦</p> <p>⑭枢軸国と連合国の戦い ⑮米・英への宣戦布告 ⑯欲しがりません勝つまでは ⑰軍国主義の敗北</p>	6	<p>○第二次世界大戦の開戦から終結までの欧米諸国や日本の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係、戦時下の国民生活についてとらえ、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解するとともに、国際協調と国際平和の実現に努めることが大切であることに気づく。</p>	<p>【知】第二次世界大戦のあらましについて、日本と世界の動きを関連づけながら理解し、その知識を身に付けている。また、戦況や被害、戦時下の生活に関する様々な資料を活用し、読み取ったり図表にまとめたりしている。</p> <p>【思】第二次世界大戦での枢軸国と連合国の動きについて、ヨーロッパでの戦争・日中戦争・太平洋戦争を関連づけながら多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。</p> <p>【主】大戦の経過と大戦がもたらした惨禍、戦時下の厳しい生活を調べるなかで、平和の大切さや世界平和を実現するために必要な努力について考えようとしている。</p>	(5) カ
	◆学習のまとめと表現	2	○学習した内容を活用してその時代を大観し、表現活動を通して、時代の特色を捉える。		(1) ウ
6	<p>【第8章】 現代の日本と世界</p> <p>[第1節] 日本の民主化と冷戦</p> <p>①敗戦からの再出発 ②平和国家を旨として ③冷たい戦争の始まり ④38度線の緊張 ⑤独立から復興へ</p>	6	○第二次世界大戦後、国際社会に復帰するまでの日本の民主化と再建の過程についてとらえ、冷戦の始まりや朝鮮戦争などの世界の動きのなかで、新しい日本の建設が進められたことを理解する。	<p>【知】世界の動きのなかで新しい日本の建設が進められたことを理解し、その知識を身に付けている。また、冷戦、日本の民主化と再建の過程、国際社会への復帰などに関する様々な資料を活用し、読み取ったり図表にまとめたりしている。</p> <p>【思】冷戦、日本の民主化と再建の過程、国際社会への復帰や第二次世界大戦後の諸改革の特色について多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。</p> <p>【主】第二次世界大戦後の日本の変化に対する関心を高め、新しい日本の建設がどのように進められたのか主体的に追究しようとしている。</p>	(6) ア
	<p>[第2節] 世界の多極化と日本</p> <p>⑥自主・独立・平和を求めて ⑦国際関係の変化 ⑧高度経済成長の光とかげ</p>	4	○ベトナム戦争や中東戦争などの世界の動きを背景に、日本の高度経済成長が石油危機により終焉するまでの過程について、安保改定・沖縄返還・日中国交正常化などの国際社会との関わりのなかでとらえ、日本の経済や科学技術が急速に発展して国民の生活が向上したことを理解する。	<p>【知】1960～70年代の世界と日本の動きについてとらえ、我が国の経済や科学技術が急速に発展して国民の生活が向上したことを様々な資料を活用しながら理解し、その知識を身に付けている。</p> <p>【思】日本の高度経済成長や石油危機について、国際社会や国民生活を多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。</p> <p>【主】1960～70年代の世界と日本の動きに対する関心を高め、国民の生活がどのように向上していったのか主体的に追究しようとしている。</p>	(6) イ (1) イ

	<p>[第3節] 冷戦の終結とこれからの日本</p> <p>⑨変動する国際社会 ⑩隣国と向き合うために ⑪私たちの生きる時代へ ⑫未来をひらくために</p>	5	<p>○冷戦終結後の変動する世界と日本の動きについてとらえ、国際社会において日本の役割が大きくなってきたことや、環境・人権・平和などをめぐる様々な課題が残されていることに気づき、これからの未来をひらくためにどのように社会と関わればよいのか考える。</p>	<p>【知】冷戦終結後の世界や日本の動きと関連づけながら、国際社会において日本の役割が大きくなってきたことや、環境・人権・平和などの課題に関する情報を活用し読み取ったりしながら様々な課題が残されていることを理解し、その知識を身に付けている。【思】国際社会のなかで日本が果たす役割や、環境・人権・平和などをめぐる様々な課題について多面的・多角的に考察し、これからどのように社会と関わればよいのか自分なりに表現している。</p> <p>【主】冷戦終結後の世界と日本の動きに対する関心を高め、未来に向けて社会に残されている様々な課題と、自分との関わりについて主体的に追究しようとしている。</p>	(6) イ
	◆学習のまとめと表現	1	○学習した内容を活用してその時代を大観し、表現活動を通して、時代の特色を捉える。		(1) ウ
7	<p>《公民的分野》</p> <p>【第1章】 私たちの暮らしと現代社会</p> <p>[第1節] 私たちが生きる現代社会</p> <p>①つながる私たちと世界 ②世代を超えたつながりへ</p>	6	○現代日本の特色として少子高齢化、情報化、グローバル化などがみられることを理解するとともに、それらが政治、経済、国際関係に影響を与えていることに気づく。	<p>【知】現代日本の特色として少子高齢化、情報化、グローバル化などがあることをさまざまな情報手段を活用して収集して理解し、その知識を身に付けている。</p> <p>【思】少子高齢化、情報化、グローバル化などが政治、経済、国際関係に影響を与えていることについて、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。</p> <p>【主】少子高齢化、情報化、グローバル化などの、現代社会の特色に対する関心を高め、主体的に追究しようとしている。</p>	(1) ア
	<p>[第2節] 現代につながる伝統と文化</p> <p>①豊かな生活を実現するために ②理解し、尊重し合うこと</p> <p>◎人権作文</p>	4	○現代社会における文化の意義や影響を理解するとともに、我が国の伝統と文化に関心をもち、文化の継承と創造の意義に気づく。	<p>【知】文化によって初めて豊かな生活を享受できること、ものの見方や考え方、判断、価値観などが文化によって影響を受けていること、文化が現代社会を規定する大きな要因の一つであることを理解している。</p> <p>【主】我が国の伝統と文化の意義や、現代社会への影響に対する関心を高めている。また、我が国の伝統と文化が、自然や社会とのかかわりの中でどのように受け継がれてきたのかについて、主体的に追究している。</p>	(1) ア

9	<p>[第3節] 私たちがつくるこれからの社会</p> <p>①さまざまな人と生きる ②よりよい社会を築くために ③誰もが大切にできるルールとは</p>	6	<p>○人間は本来社会的存在であることに着目し、社会生活における物事の決定の仕方、きまりの意義について考え、現代社会をとらえる見方や考え方の基礎として、対立と合意、効率と公正などについて理解する。</p>	<p>【思】社会集団を形成し、その一員として所属する集団や所属員にかかわる問題を解決する際の決定の仕方について、現代社会をとらえる見方や考え方の基礎としての対立と合意、効率と公正などの視点から多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。</p> <p>【主】家族、学校、地域の自治会、職場などさまざまな集団における物事の決定の仕方に対する関心を高め、きまりを守ることを主体的に追究している。</p>	(1) イ
	<p>【第2章】 人間を尊重する日本国憲法</p> <p>[第1節] 民主政治を支える憲法</p> <p>①侵すことのできない永久の権利 ②憲法はこうして生まれた ③国民の意思による政治</p>	8	<p>○日本国憲法が基本的人権の尊重、国民主権及び平和主義を基本原則としていることについての理解を深め、日本国及び日本国民統合の象徴としての天皇の地位と天皇の国事行為について理解する。</p>	<p>【知】人間の尊重についての考え方、法の意義と法に基づく政治の大切さ、日本国憲法が基本的人権の尊重、国民主権及び平和主義を基本的原則としていること、天皇の地位と天皇の国事に関する行為について、人間の尊重についての考え方と法に関するさまざまな資料を収集しながら理解し、その知識を身につけている。</p> <p>【主】人権の尊重についての考え方と法に対する関心を高め、それらを主体的に追究し、民主的な社会生活について考えようとしている。</p>	(3) ア
10	<p>[第2節] 憲法が保障する基本的人権</p> <p>①私たちの権利としての自由 ②自由な社会のために ③法の下での平等とは ④差別をしない、させない ⑤人間らしく生きるための権利 ⑥20世紀生まれの権利 ⑦みんなで育てる人権意識 ⑧基本的人権を守るために ⑨人権侵害のない世界に ⑩自由と権利を守るために</p>	10	<p>○人間の尊重についての考え方を、基本的人権を中心に深め、法の意義を理解するとともに、民主的な社会生活を営むためには、法に基づく政治が大切であることを理解し、我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義について考える。</p>	<p>【知】人間尊重の考え方を基本的人権を中心に深め、法の意義と法に基づく政治の大切さ、日本国憲法が基本的人権の尊重、国民主権および平和主義を原則としていることについてさまざまな資料を収集し、学習に役立つ情報を適切に選択しながら理解し、その知識を身につけることができる。</p> <p>【思】我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義について、多面的・多角的に考察し、民主的な社会生活のあり方について、さまざまな考え方をふまえて公正に判断できる。</p> <p>【主】日常の具体的な事例を通して、人間尊重についての考え方と法に対する関心を高め、それらを主体的に追究し、民主的な社会生活について考えようとする。</p>	(3) ア

	<p>[第3節] 私たちの平和主義</p> <p>①憲法に定められた平和主義 ②日本の安全保障と平和主義 のこれから</p>	4	<p>○日本国憲法の平和主義について理解を深め、わが国の安全と防衛の問題について考えるとともに、核兵器の脅威に着目し、戦争を防止し世界平和を確立するための熱意と協力の態度を養う。</p>	<p>【知】平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、国の安全と生存を保持しようと思い、わが国が国際紛争解決の手段としての戦争を放棄し、陸海空軍その他の戦力を保持しないことを決意したことについて理解し、その知識を身につけている。</p> <p>【思】我が国の安全と世界の平和をいかにして実現すべきかについて、多面的・多角的に考察し、これからのよりよい社会のあり方について自分なりに考察を深め、自分の言葉で表現できる。</p> <p>【主】世界平和の実現と人類の福祉の増大に関わる国際社会の諸問題に対する関心を高め、主体的に追究しようとしている。</p>	(3) ア
11	<p>【第3章】 私たちの暮らしと民主政治</p> <p>[第1節] 民主主義と日本の政治</p> <p>①国民の代表を選ぶ選挙 ②願いをかなえる政党政治 ③マスメディアと政治 ④国会の決定は国民の意思 ⑤二つの院をもつ国会 ⑥国会議員が果たす役割 ⑦内閣と国会の関係 ⑧行政をまとめる内閣 ⑨暮らしと関わる行政</p>	9	<p>○国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みのあらましや政党の役割を理解し、議会制民主主義について考えるとともに、多数決の原理とその運用のあり方について理解を深める。</p>	<p>【知】国会、内閣、政党について、議会制民主主義において欠くことのできないものであることを収集した資料の中から理解し、その知識を身につけている。さらに、多数決が民主的な議決方法として用いられるには十分な説得と討論が必要であり、そのため言論の自由が保障されなければならないことを理解している。【思】議会制民主主義が、我が国の政治の原則になっていることについて考察し、その過程や結果を適切に表現している。また、選挙は、主権をもつ国民の意思を政治に反映させるための主要な方法であって、良識ある主権者として主体的に政治に参加することの意義について多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。</p> <p>【主】国や地方公共団体が行う、政治に対する関心を高めている。また、自らが自らを治めるという民主政治の基本的な考え方と、その考え方に基づく国や地方公共団体の政治の仕組みについて主体的に追究している。</p>	(3) イ

	<p>[第2節] 司法権の独立と裁判</p> <p>①権利と秩序を守るために ②犯罪を裁く ③公正な裁判とは ④私たちの司法参加 ⑤互いに監視し合う三つの権利</p>	5	<p>○国民の権利を守り、社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な裁判の保障があることについて理解する。</p>	<p>【思】国民の権利を守り、社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な裁判の保障があることについて、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。また、国民の司法参加にかかわる課題を見だし、対立と合意、効率と公正などの視点から多面的・多角的に考察し、その過程や結果を自分の言葉で表現している。</p> <p>【主】法に基づく公正な裁判によって国民の権利が守られ、社会の秩序が維持されていることに関心をもち、司法権の独立と法による裁判が憲法で保障されていることについて、理解を深めようとしている。また、国民の司法参加の意義や課題を、主体的に追究し、考えようとしている。</p>	(3) イ
12	<p>[第3節] 地方自治と住民の参加</p> <p>①身近な地域の政治 ②暮らしを支える地域の行政サービス ③住民参加で地域をつくる ④変わりゆく地域社会</p>	6	<p>○地方自治の基本的な考え方を理解する。その際、地方公共団体の政治のしくみについて理解するとともに、住民の権利や義務に関連させて、地方自治の発展に寄与しようとする住民としての自治意識の基礎を育てることができる。</p>	<p>【知】地方自治は、住民参加による住民自治が基本であることをさまざまな資料を収集し、学習に役立つ情報を適切に選択しながら理解し、その知識を身につけている。また、地方公共団体の政治は、首長と議会の二つの機関を中心に行われていることを理解し、その知識を身につけている。</p> <p>【主】地方公共団体の現実の政治に対する関心を高め、自分自身の課題としてそれらを主体的に追究し、民主的な政治について考えようとする。</p>	(3) イ
	<p>【第4章】 私たちの暮らしと経済</p> <p>[第1節] 消費生活と市場経済</p> <p>①家計とはなんだろう ②消費者を守るもの、支えるものの ③生産と消費をつなぐもの ④ものの価格の決めり方 ⑤価格のもつ意味</p>	6	<p>○身近な消費生活を中心に経済活動の意義を理解するとともに、価格の働きに着目して市場経済の基本的な考え方について理解する。</p>	<p>【知】経済活動の意義が人間の生活の向上にあり、経済は生活のための手段にほかならないことを個人の消費生活に関する資料やさまざまな情報手段を活用しながら理解し、その知識を身につけている。また、市場経済においては、企業や個人は価格を考慮しつつ、何をどれだけ生産・消費するか選択していることを理解し、その知識を身につけている。</p> <p>【思】消費者は、自らの利益の擁護及び増進のために、自立した消費者になるべきということや、どのような消費者行政が行われているのかについて、多面的・多角的に考察し、その結果を適切に表現している。</p> <p>【主】消費生活に対する関心を高め、それを主体的に追究している。</p>	(2) ア

1	<p>[第2節] 生産のしくみと企業・金融</p> <p>①生産活動をにやう主体 ②さまざまな企業 ③間接金融の代表、銀行 ④直接金融の舞台 ⑤市場経済の中の社会的責任</p>	7	<p>○現代の生産や金融などのしくみや働きを理解するとともに、社会における企業の役割と責任について考える。</p>	<p>【知】人々が求める財やサービスを作り出す生産が、企業を中心に行われていることを企業や金融機関に関するさまざまな資料を収集しながら理解し、その知識を身につけている。また、金融・企業の社会的な貢献について理解し、その知識を身につけている。</p> <p>【主】企業の生産活動、金融などに対する関心を高め、企業の経済活動、金融について主体的に追究しようとしている。</p>	(2) ア
	<p>[第3節] 財政と政府の役割</p> <p>①財政が果たす三つの役割 ②税金を納めること ③税金の行方と国の借金 ④経済政策が目ざすもの ◎租税教室</p>	7	<p>○国民の生活と福祉の向上を図るために、財政として、国や地方公共団体が果たしている役割について考える。また、財源の確保と配分という観点から、財源の役割について考える。その際、租税の意義と役割について考えるとともに、国民の納税の義務について理解する。</p>	<p>【知】社会資本の整備、公害の防止など環境の保全、社会保障の充実、消費者の保護など、国や地方公共団体が果たす役割の重要性について理解し、その知識を身につけている。また、国民が納税の義務を果たすことの大切さを理解し、その知識を身につけている。</p> <p>【主】国や地方公共団体が行う、さまざまな経済活動に対する関心を高めている。また、市場の働きに委ねることが難しい諸問題に対する国や地方公共団体の経済活動を、主体的に追究している。</p>	(2) ア、イ
	<p>【第5章】 安心して暮らせる社会</p> <p>[第1節] 労働と社会保障</p> <p>①働く人たちのいま ②安心して働ける社会 ③互いに助け合う社会 ④社会保障の充実のために ⑤暮らしやすいまちづくりへ</p>	5	<p>○社会生活における職業の意義と役割及び雇用と労働条件の改善について、勤労の権利と義務、労働組合の意義及び労働基準法の精神と関連づけて考える。また、国民の生活と福祉の向上を図るために、社会資本の整備、社会保障の充実など、財政として国や地方公共団体が果たしている役割について考える。</p>	<p>【知】社会資本が多く経済活動を円滑に進めるために必要な基礎的施設として、間接的に経済の発展に役立つことについて理解し、その知識を身につけている。また、日本国憲法第25条の精神に基づく社会保障制度の基本的な内容を理解するとともに、一層の充実を図る必要があることを理解し、その知識を身につけている。</p> <p>【主】社会生活における職業の意義と役割、および雇用と労働条件の改善の問題に対する関心を高め、それを主体的に追究している。また、国民の生活と福祉の向上を図るために、財政として国や地方公共団体がやっている政策に対する関心を高め、さまざまな課題に着目し、その解決について考えようとしている。</p>	(2) ア、イ
2	<p>[第2節] これからの日本経済の課題</p> <p>①循環型社会に向けて ②グローバル化する経済 ③新たな日本経済のあり方</p>	3	<p>○公害の防止など環境の保全についての問題、地域経済の活性化、グローバル化する国際社会における日本など、今後の日本経済が直面する課題をとらえるとともに、その解決について考える。</p>	<p>【思】環境保全の問題、地域経済の活性化、グローバル化する国際社会における日本など、これからの日本経済の課題について、対立と合意、効率と公正などの視点から多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現しようとしている。</p>	(2) ア、イ

	<p>【第6章】 国際社会に生きる 私たち</p> <p>[第1節] 国際社会と国家</p> <p>①国際社会を構成する国家 ②互いに尊重し合う国家 ③国際社会のまとめ役 ④結びつきを強める国際社会 ⑤世界の一員として ⑥民間から始まる国際支援</p>	6	<p>○世界平和の実現と人類の福祉の増大のために、国際協調の観点から、国家間の相互の主権の尊重と協力、各国民の相互理解と協力及び国際機構などの役割が大切であることを認識し、国際社会における我が国の役割について考える。</p>	<p>【知】世界平和の実現と人類の福祉の増大に関わる国際社会の活動に関する資料を、さまざまな情報手段を活用して収集し、収集した資料のなかから学習に役立つ情報を適切に理解している。</p> <p>【主】戦争を防止し、世界平和を確立するための熱意と協力の態度を育て、人間の生命の尊さ、平和の尊さを考えようとしている。</p>	(4) ア
3	<p>[第2節] 国際社会が抱える課題</p> <p>①終わらない地域紛争 ②多様性のなかで生きる ③安全をおびやかすもの ④なくてはならない食料と水 ⑤これからの資源とエネルギー ⑥「生命の星」を守るために</p> <p>【終章】 私たちにできること</p> <p>[第1節] 持続可能な未来へ</p> <p>①持続可能な未来のために ②「未来への私たちの約束」をつくろう ⑤持続可能な未来への行動</p>	10	<p>○世界平和や地球環境、資源・エネルギー、貧困など、現在の国際社会が抱えるさまざまな課題を理解し、その解決のために経済的、技術的な協力などが大切であることを理解する。</p> <p>○日本国憲法の平和主義について理解を深め、我が国の安全と防衛及び国際貢献について考えるとともに、核兵器などの脅威に着目させ、戦争を防止し、世界平和を確立するための熱意と協力の態度を育てる。また、持続可能な社会を形成するという観点から、私たちがよりよい社会を築いていくために解決すべき課題を探索し、自分の考えをまとめることができる。</p>	<p>【知】世界平和や地球環境、資源・エネルギー、文化・宗教、地域紛争、人間の安全保障、食料と水、貧困などの国際社会が抱える課題に対しては、収集した資料の中から学習に役立つ情報を適切に選択して、経済的、技術的な協力などが大切であることを理解し、その知識を身につけている。</p> <p>【思】世界平和や地球環境、資源・エネルギー、文化・宗教、地域紛争、人間の安全保障、食料と水、貧困などに関わる課題を見だし、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。</p> <p>【主】世界平和の実現と、人類の福祉の増大に関わる活動に対する関心が高まっている。また、現在の国際社会が抱えるさまざまな課題に対して主体的に追究し、課題解決に向けた取り組みを考えようとする。</p>	(4) ア、イ